

健康福祉常任委員会 市内 3 つの協議会と懇談

～新型コロナウイルス感染対策とその後の運営について～

健康福祉常任委員会は、新型コロナウイルス感染対策において、感染リスクが高く、運営が困難であっても、社会的に必要とされている民間事業(民間保育園、民間学童保育室、介護施設の協議会)3 団体と懇談を行いました(10月6日、9日、12日)。

【民間保育園との懇談】

26ヶ所の私立保育園に「コロナ禍における私立保育園の現状について」事前アンケートを実施し、感染予防として行っていることや行事の取り組み、子ども達の登園状況等の報告をいただきました。普段から保育士の確保には苦慮しているところ、新型コロナウイルス感染拡大による不安から辞めていく保育士がいること。また感染拡大を防ぐための消毒や登園時の引き渡しに門まで迎えに行くこと等の業務が増えていることなど、運営の厳しさだけでなく、子ども達の命と共に職員の命も守らなければならないことの困難さが語られました。戸田市、埼玉県への要望書も資料として提供していただきました。

【民間学童保育室との懇談】

ここ10年で戸田市における民間学童が急激に増えましたが、親が安心して働くうえで重要なことは、学校に通うようになっても大人に見守られながら、子ども自身が安心して育つことが大切、子どもに向き合った学童の在り方、必要性が語られました。そのうえで、指導員が研修に参加し、保育の質が向上するような処遇改善が必要であること。また新型コロナウイルス感染対策での学校一斉休業では、朝からの学童対応を迫られ、人材確保に追われたとのこと。運営においては、学童に通う子供の数が、直接、収入にひびくことから、人件費が安く設定せざるを得ないこと。また指導員は変則的な勤務体系であることから人材確保にとっても苦慮しており、戸田市の補助金に対しても言及がありました。

【介護施設の懇談】

新型コロナウイルス感染対策での施設運営について、3月、4月、5月の利用者数の減による収入減は、未だに埋められないとのこと。普段から介護職員の確保が難しい中、職員の感染リスク、施設内の消毒等、仕事が増えていることなどが理由で辞めていく方もいるとのこと。利用者さんやその家族においては、利用者さんが感染することで、家族へ広がるのが懸念され、通所サービスを休みがちになること。特に認知症やおむつ交換が必要な方々が自宅で放置されてしまうこと、介護する家族の負担が増えることなど課題は山積していることが資料をもとに語られました。

委員より、「介護職員が、定期的にPCR検査を受けることが出来るなら、少しでも安心して働くことができるのではないか」という質問に対し「(要望というわけではないが)安心して働くための一つにはなります」とのこと。また他の委員からは、「処遇改善が何より必要なのではないかと」いった話があり、「本当にそ

の通りです」との話がありました。

最後に私から、要介護認定を受けている高齢者を把握しているケアマネジャーがしっかりと保険者（市）へ生活実態と伝える仕組みづくりが必要であることから、その仕組みをどのように構築すべきか、今後とも意見や要望をいただきたいと発言しました。

今後、戸田市として事業所を守りつつ、安全な事業を展開していくための施策を検証します。

なお、私個人としては、障がい福祉事業所との懇談も行いたいと提案しましたが、戸田市内に協議会がなく、代表との懇談が難しいことから行えませんでした。（2020.10）